石川光春先生の思ひ出

山　田　幸　男

日本藻類学会名誉会員石川光春先生は昨年11月21日に御逝去になりました。誠に痛恨の至りであります。憶へば去る昭和28年日本藻類学会誕生の際，名誉会員として吾々の推戴した我が国の藻類学に関する先輩の方々の内さきに牧野，三宅，国枝の諸先生をうしなってをりますが，今又石川先生をうしなったことは何とも悲しみにたえない次第であります。私が石川先生に初めてお目にかかったのは大正7年の秋一高に入学した時ですから略々50年の昔になりますが，当時まだ本郷にあった一高の階段教室で植物学の講義を聞いた時でした。最初の講義の前に，偉大な体骼の助手の人が出欠をとってゐたのを初めての吾々はそれが石川先生と思ってゐたのが間違ひであったことは直きにわかりましたが，然し本当の先生が助手の人の様に体格が大きくなく，しかも和服姿であったことを意外に感じたことを覚えてゐます。尤も先生はいつも和服で講義をされたばかりでなく，尠くとも私の記憶では先生の洋服姿を拝見したのは，いつか先生が外遊から帰られて直後頃小石川植物園の植物学教室へ見えた時一回限りだと思ひます。従て私には先生のお姿はいつも和服姿で浮んできます。学校での講義は初めの内は形態のお話が主で後の方で生理，分類のお話しがあったのですが，分類の時には特にアサクサノリのお話をくわしく伺ひました。これは後に私自身が海藻学の勉強をする様になってから先生の特にアサクサノリの細胞学的研究の先駆者の1人であったことを知り，嘗ての講義のことを憶出した訳であります。私は一高では三部の医科志望へ入りましたから先生からは1年目に講義をきいただけでした。然るに2年，3年になるにつれて医科志望に嫌気がさし将来は植物学或は林学をやってみたいと思ふ様になったので，先生の室へ伺って自分の心境をきいて頂き尚ほ植物学とは本当はどんなことをやるものかとか，又大学へ進む時医科志望から理科の植物学科へ入れるものかといふ様な極めて幼稚な事を伺ったのですが，先生は私のいふことをよく聞いて下され，植物学なるものにつき色々と委しく話をしてきかせて下さり，その上ナタンゾーン氏の一般植物学に関する書物を「これを読んで見給え」といって貸して下さいました。この様な御縁で私は一高を卒業すると理学部の植物学科に入り，更に海藻学を専攻する様になり今日迄何かと先生の御厚情を頂いてきた次第であります。然るに私は昭和5年から北大へ赴任，ずっと札幌に在住したゝめ親しく先生にお目にかかる機会に余り恵まれず甚だ残念に思っている次第です。然し先生からは度々御便りを頂き拙い私の書いた研究報告の別刷等をお送りした際には必ずその御批判や励ましの御手紙を頂いてをりました。

The Bulletin of Japanese Society of Phycology, Vol. XVII, No. 1, 53—54, April 1969

それ等のことについて2つばかり次に述べて先生をしのびたいと思ひます。

1つは昭和3年私が在外研究員としてアメリカに滞在中植物研究雑誌で先生の書かれたラブルベニヤ菌についての記事を読み，その後間もなくハーバード大学のファーロー腊葉館を訪れた際ラブルベニヤ類研究の大家であったタクスター博士にお目にかゝったので石川先生の記事のことをお話した処大変喜ばれ，石川先生のことを委しく尋ねられたので石川先生は私共の先生であること，又研究雑誌の記事のこと其他色々お話しをしたことがありました。それから約1年余の後帰国して石川先生の許へ御挨拶に出た処先生から，タクスター博士から便りがあり色々と論文等も送ってもらって御蔭を被っていると態々御礼の言葉を頂戴して大変恐縮したと同時にうれしく思ったことがありました。それからもう1つ先生の思ひ出を述べたいと思ひます。それは戦後私は長崎県下に産する天然記念物のチスジノリをしらべ，この植物は本当のチスジノリではなくてオキチモヅクであるとの結論に達し，そのことを植物研究雑誌に書き，その別刷を先生にお送りしたのですがそれに対して昭和23年8月28日付のお手紙を頂きましたが，その中に次の様な条がありました。

「扨而高著の中にて長崎県のちすぢのりの件，あれを拝読して感慨にたへず又ヒヤリとする所も有之候，そは大正11年震災の前年2回にわたり，たしか岡村先生の藻類図譜によりてか，産地を突き止め島原半島神代村に至り採集を試みサイトロジーを始めしものに御座候，然しクロマトホーアの形もバンギヤ類と大変違ふし（リボン状のが若干ありと覚え候，岡村先生の藻類系統学に小生の言として盤状にして不規則なる輪廓を有する云々は，あれは先生何かの間違と存候）立派な細胞間連絡点があり立派な核があり，その他総てがバンギヤ類とは違ふので正にオルトマンスの書にある如くフロリデーに入るべきものと先づ見当をつけ，その内外遊をしたり杯して研究も中止の形になりその儘今日に及び材料，標本，手記は総て戦災にて烏有に帰し候次第，然しあの当時あの儘纒めて発表したら片手落ちのものが出来たし若し真のちすじのりを得たら問題が大きくなり，さばきをつける迄は相当エネルギーも要し，またそれだけ面白きことゝも存ぜられ候，兎に角右高著を読みて色々回想禁じ難く，また誰か真のちすぢのりのサイトロジを遣る人もがな杯と新に念願を催す次第に御座候。後略」

この御手紙で明な様に先生は早くから紅藻類の，特に下等な紅藻類の細胞学的研究にも努力をされましたので，若しも関東大地震がなかったら恐らくこの方面の研究は先生により我が国に於て特に発達していったものをと残念に思われる次第であります。

石川光春先生御逝去の悲報に接し，ありし日の先生をしのび謹んで御冥福を祈る次第であります。